

岩木川ダム 統管だより

【号外】
2019年
8月29日



“津軽ダム”かんがい期間の用水補給達成 ～「平成」以降最小規模相当の小雨の中で～

◆平成29年4月の管理移行後、一番低い貯水位となった津軽ダム(R元. 8. 16 8時30分撮影)

◆津軽ダム貯水池の状況写真(R元. 8. 13 ドローンにて撮影)



◆マスコミへのタイムリーで正確な情報提供に努めました。

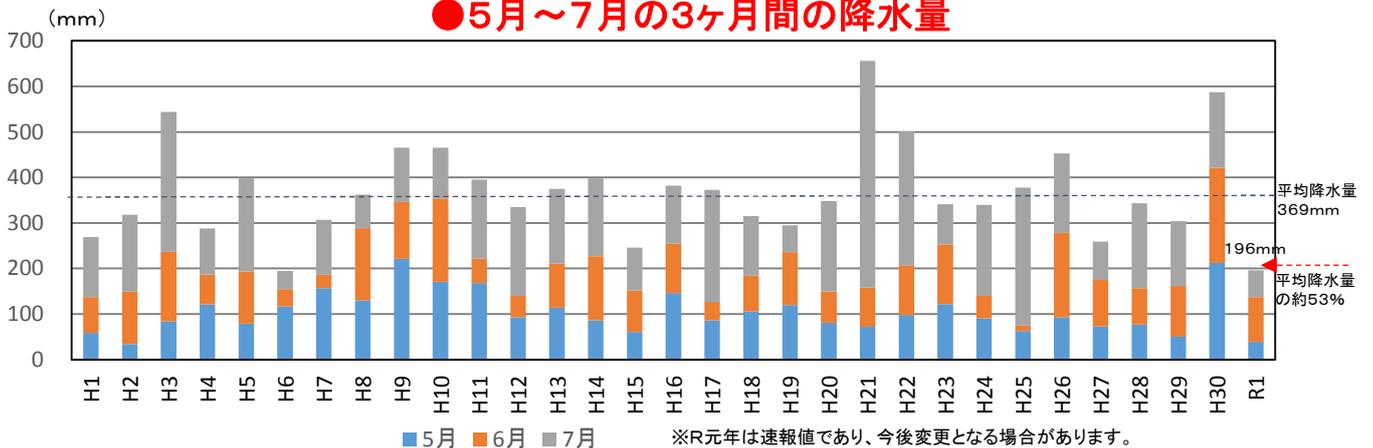
岩木川水系は今年5月以降少雨傾向で、その影響により河川流量が低下し、かんがい用水等の水利用や河川環境への影響が懸念されたため、青森河川国道事務所及び岩木川ダム統合管理事務所では岩木川水系渇水対策支部（警戒体制）を設置し、河川状況の監視強化、関係機関との連携強化を図ってきました。

また、津軽ダムの貴重な水を有効に活用するため、渇水情報連絡会を通じ利水者間で調整を進め、利水者間の自主的な節水状況を踏まえながらダムからのかんがい用水等の補給を続けてきたところです。

この結果、8月23日の降雨の恩恵もあり、津軽地方における9月5日までのかんがい期間中において、今後、降水が見込めない場合においてもかんがい用水等の補給を達成できる見込みとなりました。

仮に津軽ダム建設前の目屋ダムにおいて、今回のかんがい用水等を補給し続けた場合には6月中旬頃にダムの利水容量（次ページへ続く）

●5月～7月の3ヶ月間の降水量



●津軽ダム利水効果に関する地元からの声

農業関係者の声（西津軽土地改良区 事業課 浅利課長）

- ・津軽ダムができる前は、6月に入ってから岩木川の水量が極端に減り、毎年のように番水があった。
- ・津軽ダムができたことにより安定した水量となり、配水計画を作成できるようになった。
- ・番水というストレスから解放された。
- ・用水路に常に水が流れているという安心感がある。

上水道関係者の声（弘前市上下水道部上水道施設課石川課長）

- ・津軽ダムができて、安定的に取水できるようになり、水質もよくなった。
- ・水温は低い方がおいしい水になる。

（前ページからの続き）

は使い果たしていたものと推察されます。

なお、岩木川ダム統管理事務所が管理する津軽ダム地点（平成27年以前は目屋ダム地点）の降水量データを集計したところ、速報値ではありますが、平成元年以降最小規模相当の少雨の年であることがわかりました。

平成29年4月に管理へ移行して初めての“渇水”になりますが、目屋ダムの約3.6倍の貯水量により、この危機をなんとか脱したことに安堵し、今後については“流水の正常な安定供給”を中心に、その役割をしっかりと果たしてまいります。

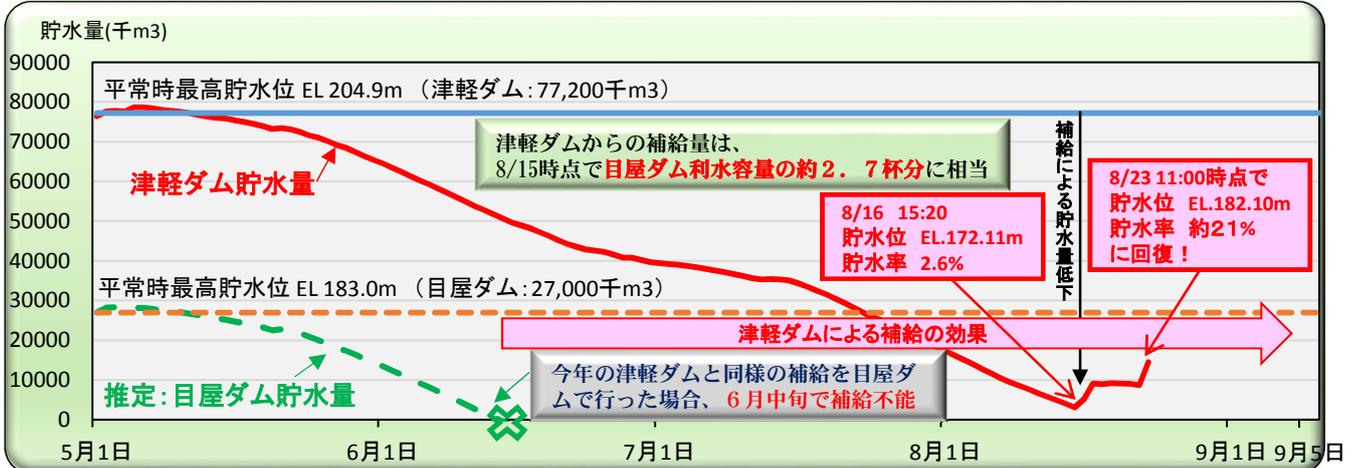
農業関係者の声（青女子堰土地改良区 鳴海事務長）

- ・津軽ダムができる前は、岩木川から直接取水していたが、岩木川本川で必要な水量を取水できないことがたびたびあった。
- ・今年、雨が降らなくても水が切れないのは津軽ダムのおかげ。

漁協関係者の声（岩木川漁業協同組合 村上組合長）

- ・岩木川の水量が一定に確保され、安定した水量となった。
- ・水量が増えたことも関係するのか、水質もきれいになっているように見える
- ・特に令和元年はアユの遡上が多いこともあるが、アユ釣りが平成30年に比べて多い。溪流釣りも平成30年よりも多い。

●仮に津軽ダムが無かった場合のシュミレーション（※_6月中旬には補給不能!）



編集後記

岩木川ダム統管理事務所が平成29年4月に開所して以来初めての“号外”の発行になります。津軽地方での小雨により、津軽ダムの貯水率が2.6%まで低下しましたが、その後、恵みの雨が降り、現在、貯水率も20%台後半まで回復しています。まだまだ安心はできませんが、水陸両用バスが9月1日（日）から運行再開予定だと聞き、更なる賑わいを期待しています。（船水）

編集・発行

国土交通省 東北地方整備局

岩木川ダム統管理事務所

〒036-1422

青森県中津軽郡西目屋村大字居森平 字寒沢138-2

TEL 0172-85-3035

FAX 0172-85-3061

岩木川ダム統管理事務所

ホームページアドレス

http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/

